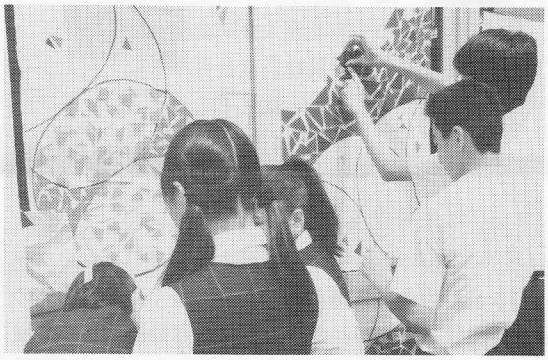
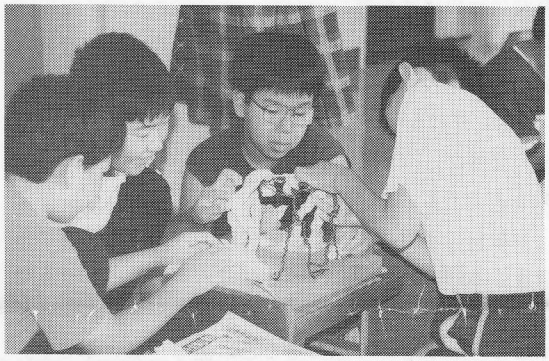
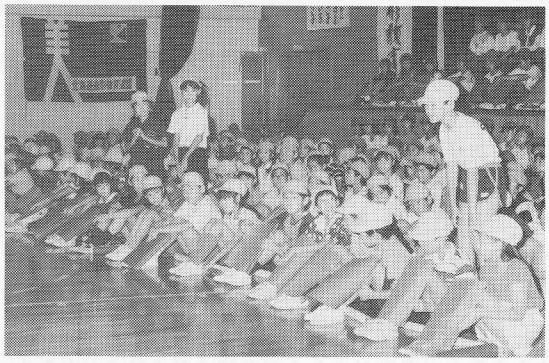
＝特　集＝

第41回全道造形教育研究大会札幌大会

テーマ　子どものつくる喜びをひらく







目次　札幌大会を終えて ……2・3
幼稚園にとびこんで…「驚く心」を……4
札幌大会風景 ……4・5
造形あそびについて……5
札幌大会を終えて ……6・7
サクラクレパス・あとがき……8

北海道造形教育連盟報

No. 90　1991.12.20発行

発行　北海道造形教育連盟

事務局　〒065　札幌市東区北46条東13丁目1番地
札幌市立栄東小学校　鹿嶋　健
☎011－753－2670

第41回全道造形教育研究大会
札幌大会を終えて

札幌大会研究部長
札幌市立伏見小学校
冨田　泰
（北海道造形教育連盟研究部長）

＊50年先を見る

「教育の在り方」が、大きく変わらなければならないと唱えられ、それに携わる者のみでなく、国民全体の前に、早急に解決されなければならない課題として横たわっています。

学習指導要領の改訂が幼・小・中・高と、順次に実施され、学校教育の転換が図られようとしています。

また、学校5日制に関わる様々な議論が紙上を賑わしていますが、克服しなければならない問題がたくさんあるようです。

しかし、どれをとっても、今までの教育の反省に基づき、人間としての在り方、社会人としての在り方を問い、私たちは今何を見つめ、そして何を成さなければならないかを探り深めることに他ならないのです。

「今何を見つめ、何をしなければならないか」の基本に「今」を大切にすると同時に、10年いや50年先を見る「目」が必要であります。造形教育においても小手先ではなく、50年先を見た「在り方の転換」を図っていかなければならないと思います。

＊新しい授業づくり

さて、この度の第41回全道造形教育研究大会も札幌市立三角山小学校を会場に大成功裡に終了することができました。全道各地からご参集くださいました先生方の造形教育に対する熱き情熱に支えられ大きな成果を上げることができました。

レセプションなどで、「さすが札幌」という言葉をお世辞かと思いつつも耳にし、嬉しく励みになりました。本当にありがとうございました。

研究の推進にあたり、「今までとはちょっと違う授業づくり」を目指しました。思い切った「授業の展開」「授業計画」「授業内容」を考えましたが、過去の研究を否定するものではなくあくまでもその研究をベースにその「在り方」を模索しました。

そして、札幌大会を、

1. 「公開授業」を中心に発表する
2. 「実践」そのものを語り合う場にする
3. 大きな「教育の転換」を図る
4. 様々な「問題を提示」する
5. 幼・小・中・高の一貫教育を具体化する大会として、研究を推進してまいりました。これらのことが総て解決したわけではありませんし、永遠の課題として残るものであることはいうまでもありません。

私たちの課題としてより明確にされたものと考えています。

＊「授業実践」一色にうめた会場

『札幌の地域性をどうとらえようか？』
『特色として……？』

大会構想の最初の研究部の話し合いでこの大会をどう特色づけるか話し合いました。結局「授業実践」が最適であり、「授業実践」一色で研究発表し、全道の方々にご指導、ご助言をいただくという基本構想が出来上がりました。

1. 12の公開授業と27の提言
2. 24枚のパネルの実践発表（写真と説明）
3. 全市から集めた日常実践の児童生徒作品
4. 「実践事例集」の発刊　　等々

嬉しいことに、公開授業をしたいという先生方がたくさんいたことです。幼稚園教育の研究をされている方々、札幌市教育研究協議会の図工、美術に所属している方、そして、高校部の方々が連盟の研究と日常的に研究をされているものとの合致点の発表の場として考えてくださいました。

当初の計画以上に充実した内容になったことは、造形教育の今日的課題の大きさを多くの方々が共通して理解していることを示しているものと思いました。

＊事前授業研究

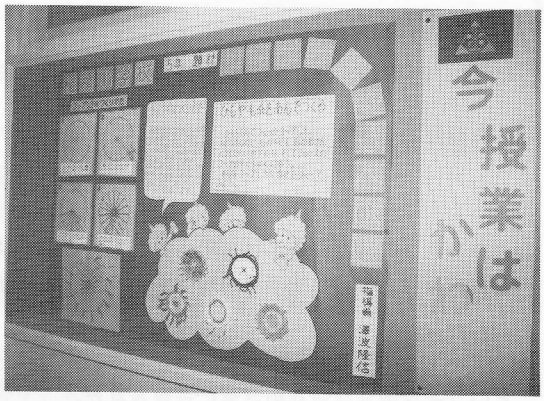
今大会の研究推進をしていく中で、「公開授業」の検討を深めるために領域のグループをつくり事前授業研究を行いました。幼稚園、小学校では、平常の日の研究授業の形になるので各園長、各学校長に先生方の派遣をお願いすることになりました。困難が予想されましたが、非常にご理解とご支援をいただきスムーズに運営することができました。

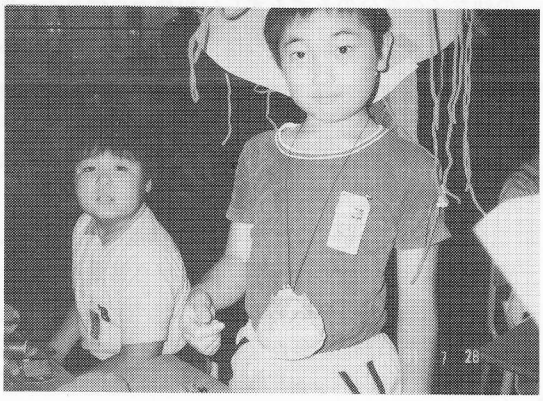
中学校では、札幌市教育研究協議会の美術部が主体

となり事前授業を含め研究をまとめられました。

このような「連盟独自の授業研究」を今後も推進していきたいという願いの実現に向け、大きな手掛かりとなりました。

札幌市在住の顧問の先生方には、大会運営委員会の席で常にご指導、ご助言をいただき、また、179名の大会の運営委員の若手の先生方の力が大会を推進し、役割を果たす中で新しい仲間ができたり、より深く知り合えたということを聞き、研究の内容の深まりと共に非常に大きな収穫であり喜びでありました。





＊新しい鑑賞教育の試行

新しい造形教育の流れの一つに鑑賞がクローズアップされていますが、この大会において「鑑賞の授業」の在り方を提言しました。三角山小学校に隣接する「本郷新美術館」における小学校と中学校の鑑賞の授業は、一つの大きな提言ではなかったかと思います。実際にその様な施設がない地域の多い私たちの環境を今一度見直し、どういう教育環境が求められるかの課題提言にもなったと思うからです。

やはり私たちは、50年先のあるべき姿を今見る必要があると思わざるを得ません。

＊各分科会の報告

「分科会記録集」を編集中です。

さて、分科会の報告に共通して言えることは、言うまでもなく、新しい造形教育理念を持ち、児童生徒が個性豊かに表現活動をするために、我々は何を「援助」するべきかを問題にしていることであります。

連盟研究主題「子どもの個性的表現を援ける造形教育」の充実を目指し、更に深めていくことが確認されたのではないでしょうか。

＊最後に

この大会の成功の力として、会場校の教職員の皆様をはじめ、PTAのお母様方、協賛業者の方々、そして夏休み中にもかかわらず授業を公開していただいた児童生徒の皆さん、園長先生、校長先生はじめ多くの方々のご尽力によるものであることを付記し、筆を置きます。ありがとうございました。

札　幌　大

幼稚園にとびこんで…「驚く心」を

札幌　清明幼稚園長　　森　川　昭　夫

教職生活40年を終わって、やれやれ、命をあずかる仕事はもういいと思う間もなく、また幼児教育に入ることになった。

たくさんの幼児に囲まれながら、だんだんこれは今までにない大事な仕事だと痛感する。それは、私にとって、驚異のひとつひとつの連続であった。

「教師には傲慢とマンネリズムがあってはいけない」というモンテッソーリの言葉に一撃された。

このことばは、年令をとった教師ほどこたえる。一年の流れは、子どもが違っていても、同じパターンと考えてしまうところに、教師の安易さ、不勉強さ、不誠実さ、非創造性が生まれる。新鮮で期待にみちている子どもたちに対して、傲慢無礼である。丁度、教育課程の改正され、教えることから育てることに変わり、今までの経験なんか、ゼロに等しい。教師はもっと謙虚に、子どもたちから学ばねばならないことが多い。特に幼い子どもの友だちになるために一番必要なものは、生き生きしていることである。教師の感じ方、考え方、希望することがすべて、常に生き生きしたものでなければならない。生き生きしていない教師は子どもの夢をみんなしぼめてしまうからである。

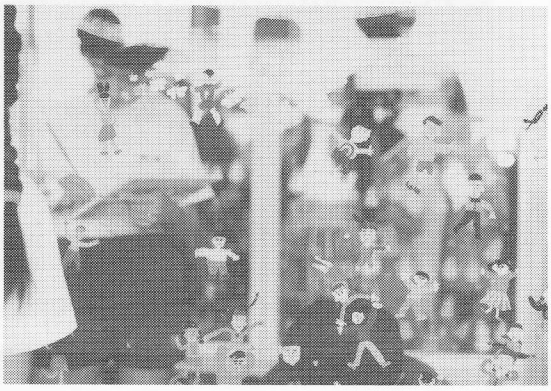
人間はどんなに年令をとっても、精神の中に豊かな幼な子の部分をもち続けていかねばならない。「きれいだなぁ」「あっ、びっくりした」「すごいすごい」「わーっおもしろい」「あれっふしぎだ」こんな声や叫び、つぶやきはすべて、自分の中の大人の部分でなく、幼な子の部分の感動から生まれている。

1日に脳細胞が何万と消えていく年令になってもこの幼な子の部分のみずみずしい想像力や創造力、生き生きした好奇心や冒険心はもち続けていきたいものである。

「おやっこの子にこんな力が……」「えっあの子にそんな力が」驚く人であることにおいて、教育者は詩人であり、芸術家になれる。

子どもたちの心に波をたて、豊かな感性、驚く心、感動を内部から起させていく仕事が必要である。

今度は、どんな物を見せて、驚かせてやろうかと、作戦を立て、子供に負けない努力をするこの頃である。



会　風　景

造形あそびについて（教師の役割）

札幌　桑園小学校長　金　井　秀　男

教育というもの、とりわけ授業というものは、目的的関係と因果関係の統一としてとらえなければならないといわれる。

授業は、目の前の子どもの現状をどう変革していくかといった目的の実現のために、最適な手段や手がかりをあきらかにしなければならない。目的的関係とか因果関係とか難しい用語を持ち出したのであるが、現状をよりよく変えるために、適切な手段をつくりださなくてはならないということを言いたいのである。

現状に行なわれている造形あそびは、その点について、充分な認識に立っているのであろうか、そこを考えると、もうひとつの問題が浮かびあがってくる。それはロゴス（論理）的なものと、パトス的なものとのすれ違いである。

論理的なものはややもすると心情的な傾斜を持つ集団の問題を軽視しがちであるばかりでなく、ときには集団の影響の弊害すら起してしまい、ついには画一的無個性という結果をもたらすことがあった。これに対して心情的な集団形成の実践は、仲間のことを思いやる、きめ細やかな気持ちの汲みとりといった心情的なものに重点をおき、子どもの心の動きにその力点を置いている。

授業は、そのロゴスとパトスを統一させるところに研究の実践が求められる。それが、かつて私が提唱した、指導の構築という考えであった。ロゴスとパトスの統一としての構想力というものが授業の技術の本質を特徴づけるのである。今日の造形あそびは、ロゴスの側からのアプローチではなく、パトスの側からのアプローチとして試み始められているのである。

「教えたいことがあって、かつ教えようとする意志があるから授業はなりたつ。」といわれている。造形あそびには「あそびたいことがあって、かつ遊ぼうとする志があるから造形あそびはなりたつ。」と考えてみると、現状の授業はどうもいまの私の中には、はっきりとしたイメージとして浮かばないのである。

子どもたちに、材料を通してあそびたいというイメージが先ずあることが肝要なので、そのあそびも活動へのデティールがあって成立するのだが、そのデティールを持ちあわせていないのが現状ではないだろうか。

札　幌　大　会

札幌市立手稲中央幼稚園　**柏　木　　順**

私は造形連盟研究大会に今回初めて参加させていただきました。そして幼稚園部会での提言発表という私にとっては「大きな仕事」も経験させていただきました。他の研究会では提言どころかあまり発言もしたことのない私です。「自分にまともな提言発表ができるのだろうか」と当日まで多少不安な日々もありました。

大会前日までの準備を手伝わさせていただきながら、規模の大きさ（会場の大きさ、作品の種類、作品の数、等）にも驚きました。三角山小学校全体が本当に「造形の海」になっていましたね。また、普段小学校高学年や中学生の作品に触れることの少ない私にはその作品のすばらしさにすっかり見入ってしまいました。そして手伝いの手もついつい休みがちになりました。

大会当日は幼稚園部会の一般参加者が少なかったのが残念でしたが、公開保育・提言発表ともに大きな混乱もなく無事に終えることができ良かったと思います。公開保育ではいつもの生活の場所が変わったにもかかわらず、子供達は普段の園生活と変わらないくらいのびのびと遊びの姿を見せてくれたと思います。また、研究協議では普段交流の少ない私立の幼稚園の先生方や小学校、養護学校の先生方とも意見を交わすことができました。職場の研究とは少し違った視点で話し合うことができ大きな視野で造形教育を考える必要があることも感じました。

提言発表のためにも大会まで多くの先生方にお世話になりました。まだまだ未熟な私ですが今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

札幌市立桑園小学校　**葛　西　良　子**

大会の朝、緊張した顔の子供たちが、ぞくぞく集まってくる。

新しい試みの第41回大会は、場所狭しとばかりに、子どもたちと教師の足跡が掲示、展示され、大会参加の先生をむかえた。

会場全体が盛り上がり”子どものつくる喜びをひらく”をテーマにくりひろげられた研究授業も感動的に展開されていった。

この大会を通じ考えさせられたことは、教師自身がもっと発想を転換し、違った角度から子どもの表現のほりおこしをしていかなければならないのではないかということです。

教師の考え方生き方が、子どものびやかな表現につながることであるし、私たちも固定した概念にとらわれず、子どもの視線に立ってものを考え実践していくことが必要ではないかと思う。

それにしても新しいことだけにとらわれ、子どもにどんな力をつけ、どんな子どもに育つことを願うかを忘れてはならないことだと思う。

札幌市立新陵小学校　**鶴　賀　考　三**

子どもの想いを生かした大会

緑豊かな自然に囲まれた三角山小学校での造形大会、好天に恵まれた事もあって参加者も400名を越す盛会ぶりでした。校庭に一歩足を踏み入れる芝生上には児童制作の大小さまざまな彫塑。また、開校14年目とは思えぬほどきれいな校舎に心引かれつつ中に入ると大会にふさわしい装飾や児童生徒が思考をめぐらせて制作した作品の数々に目をうばわれた。特に、廊下の掲示板には、先生方の授業実践を写真と分かりやすい説明と図解などを組み合わせた「実践パネル発表」が好評であった。

一方、授業風景では、児童生徒の制作意欲をそそるような新題材や素材を取り上げた造形教育が先生方の手でくり広げられていた。その先生方の熱意に応えるかのように子ども達は、授業に意欲的であった。つまり、子ども達の目と手と心が一体となった表現活動が展開されていたからである。

特に、今年の札幌大会では、授業も含めて、各係間の連携プレーや協力体制がすばらしかったように思いました。みなさん本当にご苦労様でした。

を　終　え　て

札幌市立琴似中学校　**高　橋　久美子**

第12分科会に参加させていただきました。八軒中学校中山龍雄先生の彫刻鑑賞は先生のお人柄も手伝ってか温和な中に深みのある雰囲気で、宮の森の彫刻美術館という環境にふさわしいものでした。中山先生の授業の指導計画が綿密で生徒の意識が自主的な鑑賞の学習にふさわしいものにまで引き上げられていたこと、実際に稚内の氷雪の門を訪ねられビデオ教材をつくられたこと、彫刻美術館を熟知され、効率の良い生徒の動きを考えられたことなどがすばらしく、たいへんに良い勉強をさせていただきました。また道内各地から集まってこられた先生方から、本物の彫刻教材がもつ迫力について語られ、今回の美術館での授業が生徒にとってどれだけ有意義であったか、確かめられました。作家の魂が直に見るものに語りかけ、心をゆさぶり、そして心を拓く、生徒たちは本郷新の魂に、魅入られ自らも何かを生み出してゆけるような感動を覚えたに違いありません。それが自由に観て歩きながらも、非常に緊張感のある内容の濃い授業にしていたのでしょう。このような授業そして分科会に参加でき、夏の一時を有意義にすごせた札幌大会に深く感謝しています。

札幌市立屯田中央中学校　**岡　澤　邦　彦**

三角山の深緑の麓で、子ども達が生き生きと表現している姿を一望にできた今大会は、また造形教育を考える上での新たな展望を開いた大会でもありました。

美術科を取り巻く状況が大きく変化する中で、私達に今、問われているものは何か。「子どものつくる喜びをひらく」ために、援助する教師の目と心は、どのように磨かれていかなければならないのか。幼・小・中・高の連携はどのように図るのかなど、考えさせられることのきわめて多かった大会であったと思います。

公開授業や研究発表は、どれも確かな基礎的・基本的事項を踏まえながら、意欲的に教材や指導法の開発が試みられており、新しい視点からの取り組みは、今後の発展性が期待できるものでもありました。

中学校では、さらに二日目に行なわれた「これからの美術教育」分科会において多くの示唆が与えられました。お二人の先生による提言は教育課程改訂の経過から指導法の改善のための実践例に至るまで密度の高いものであり、また参会者も多く、話し合いは充実したものになりました。ここでの話題は途切れることなく、深められていかなくてはならないと感じました。

札幌真栄高等学校　**佐　野　千　尋**

蝉しぐれの中の全道大会。高校部会は例年のように少数精鋭で？お互いに実践を持ち寄ろうということから、分科会場にはすでに作品が展示されています。札北高の精緻な金工作品やその構想図、アイディア豊かな平岸高の平面デザイン等、目を楽しませてくれます。札幌市内の他、滝川からも参加者があり、話し合いが始まりました。

高校の美術科、工芸科の実践については、学校間にそれぞれ異なった実状があります。私の場合（札幌真栄高）学校規模は32学級。生徒数1452名で、芸術科教師は3名（美、音、書）。進入生（平成3年度－11学級－505名）は三科目の中から選択して、それぞれ二年間（4単位）履修します。今年度は1学年171名、2学年168名が美術Ⅰ、美術Ⅱを学習しています。さらに進路希望を考慮して3年次に美術Ⅲを置き、23名が選択しています。

高校にいわゆる学校間格差があるということは、生徒の実態も異なるということであり、それに添ったカリキュラムがなければばらないのですから、先に上げた教育課程についても各校に於いてそれぞれ知恵を集め改良を重ねながら実践しているのです。

話し合いは、こうした中で教師はどんな題材を取りあげ、生徒に投げかけ、実りある実践をしていくかが柱になりました。「義務教育を終え、さらに学びたいという意欲を持ち、それなりの態度や習慣、自立心を持って進学してくる」生徒よりも、そうでない生徒の方が多い実状に於いて、美術や工芸がその外にあるわけではありません。各校の実態や悩み、問題点が出され、作品を呈示しながらの討議が熱心に続きました。

世の中が移り変わっていくサイクルが年々早まっていく中で、生徒の興味や関心がどうあるのかを見極め、指導要領に準拠しつつ、カリキュラムは教師自身が組むのですから、当事者としての感覚、識見、力量が問われるところではないでしょうか。

終わりに近く、若手の方から、今や教育機器として現場に益々取り入れられつつあるコンピューターを、グラフィック操作の面から取り上げている事例を話され、特に発想の展開の場面で使えないものかと実験中であるとのことでした。21世紀の美術教育への胎動を感じるとともに、ニューメディアの持つ可能性に目を開かせられました。

サクラ ニューカラー

新発売

商品名		諮旨	小売価格
サクラニューカラー(単色)	しろ	ETPW＃ 50	1,100円
	きいろ	ETPW＃ 3	1,100円
	あか	ETPW＃ 19	1,300円
	みどり	ETPW＃ 29	1,300円
	あお	ETPW＃ 36	1,100円
	くろ	ETPW＃ 49	1,300円
	やまぶきいろ	ETPW＃ 4	1,100円
	ちゃいろ	ETPW＃ 12	1,100円
	しゃいろ	ETPW＃ 18	1,300円
	セルリアンブルー(新色)	ETPW＃ 25	1,100円
	きみどり	ETPW＃ 27	1,100円
	あかむらさき	ETPW＃124	1,500円
	だいだいいろ	ETPW＃ 5	1,300円
	はだいろ	ETPW＃ 7	1,100円
	おうどいろ	ETPW＃ 15	1,100円
	ピンク	ETPW＃ 20	1,300円
	ふかみどり	ETPW＃ 30	1,300円
	ぐんじょういろ	ETPW＃ 38	1,300円
	レモンいろ	ETPW＃ 2	1,100円
	こげちゃ	ETPW＃ 17	1,100円
	むらさき	ETPW＃ 24	1,300円
	あいいろ	ETPW＃ 43	1,100円
	ローズ	ETPW＃120	1,300円
	そらいろ	ETPW＃125	1,100円
	オペラレッド	ETPW＃121	1,500円

▶用　途◀

共同制作、屋外展示作品、パネル、看板
店頭広告、舞台装飾、室内装飾 etc.

▶特　長◀

サクラニューカラーは、水溶性樹脂(アクリルエマルジョン)配合の木や布・石・金属・プラスチック・発泡スチロールと幅広い対象物に使用できる新しいタイプの絵の具です。

サクラ ピグマックス ペイントマーカー ツイン8色セット 中　字8色セット

コンパクトな8色セットケース(ミシン目入りのフタですので、切り取って使うこともできます。)

水性＋顔料＋不透明調 マーカー

入組配色

特　長

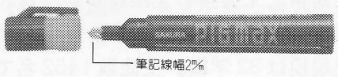
- いやな臭いがしません。
- 紙に書いたとき、裏うつり・にじみがありません。
- 書く前に振ったり、プッシュしたりする必要がありません。
- 金属・プラスチック・ガラス・木・発泡スチロールにも書けます。
- 黒い面・色つき面にも発色します。
- 耐水性・耐光性にすぐれています。
- 空気孔つきキャップ(小キャップ側)を採用しています。

用　途

- 図画工作・造形表現に
- ポスター・グラフ・POPの作成に
- 学園祭・運動会の看板書きに
- 持ち物の名前書きに

〔ツイン〕単品……1本200円

〔中　字〕単品……1本150円



SAKURA 株式会社 サクラクレパス

あ　と　が　き

具体的実践に溢れた札幌大会の余韻が残る1991年の暮れです。大会特集をしてみるとまた新たに熱気が甦るようです。研究部では大会記録をまとめて2月に発刊する準備が進んでいます。教育美術展で新たな子どもの顔（作品）に会うのをたのしみにしましょう。函館、旭川の大会準備の声を聞きながら……

稲實　順（八軒西小）　植木則子（桑園小）　島　昇二（札苗小）　岩間歳仁（厚別中）　毛馬内國夫（桑園小）